

令和元年度10月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和元年10月3日（木）午後1時00分～1時30分

場所 市役所2階 第3委員会室

出席 市政記者クラブ8社

会見内容

1. 話題提供（1項目）

1. 台北市立動物園交流事業等について

- 「台北市立動物園 新タンチョウ舎 完成記念式典」についてお伝えします。
- 釧路市動物園と台湾の台北市立動物園とは、2011年度（平成23年度）にタンチョウの「ビッグとキカ」を繁殖貸与して以来、飼育動物に関する学術交流を進めております。
- この度、台北市立動物園におきまして、新しいタンチョウ舎が完成し、10月6日（日）に完成記念式典が行われますことから、私をはじめ、釧路市議会の松永議長、釧路市議会日台友好促進議員連盟の畑中会長ほか議員の皆様方、釧路観光コンベンション協会と釧路市動物園協会の両会長を務められている中山会長、釧路日台親善協会の小船井会長など関係者約20名で台湾を訪問し、お祝いをしてまいります。
- 両生爬虫類館に隣接して建てられた新しいタンチョウ舎は、面積が1,120㎡と広く、エアコンも完備した飼育舎も設置された施設であります。以前は、鳥類グループのエリアにあったということですが、この度、園内の中央に移動する形となり、大きな規模の施設になったということです。
- 記念式典は、タンチョウ舎の観覧エリアに作られた特設会場で行われ、50名ほどが参列される中、台北市立中正幼稚園の園児の皆さんの歓迎により開始されます。
- 続いて、「台北市立動物園への天然マリモの貸与」についてです。
- 一昨年（2017年（平成29年））、毬藻（マリモ）と命名されて120周年を迎え、発見命名者の川上瀧彌氏が初代館長を務めた国立台湾博物館とのご縁の中で、特別展が開催され、釧路市が貸与したマリモの水槽展示の除幕式など、私も出席いたしました。その時から、天然マリモの貸与につなげていこうという考え方でいたところでありました。
- このたび、天然マリモ貸与に係る文化庁の許可があり、動物園側の受け入れ態勢も整ったことから、新タンチョウ舎の完成記念式典の中で、阿寒湖の天然マリ

モ4個を国外へ初めて貸与するものであります。

- このように、国の特別天然記念物「タンチョウ」と「阿寒湖のマリモ」が揃うということでもありますので、さらに台湾と釧路市の関係を深めていきたいと考えています。
- 次に、その中で実施する「釧路市の観光PR」についてです。
- 今回の記念式典にあわせて、釧路市の観光PRを目的とした臨時ブースを台北市立動物園内に設置します。
- 同ブースでは、QRコードを活用した釧路市の公式観光情報発信サイトである「Superfantastic Kushiro LakeAKAN」の繁体字版ホームページにて、阿寒湖畔で行われている「カムイルミナ」や「ロストカムイ」など、最新の観光スポット情報の提供を実施いたします。
- 11月10日まで開催している「カムイルミナ」は、大変人気がありまして、このような情報を発信していくとともに、あわせて、台湾も先住民族の文化がある訳でありますので、アイヌ文化を発信しながら、しっかり進めていきたいと考えております。
- また、台湾との交流を促進するため、次年度、北陽高校の修学旅行で、台湾を訪問することから、交流先となる台北市内の高校を訪問いたします。
- この他に、台北市内の大手旅行会社を訪問し、釧路をはじめとした「ひがし北海道」エリアへの誘客を目的とした商品造成の要請を行ってまいります。
- 今回、台北市立動物園の新しいタンチョウ舎の完成式にあわせながら、マリモも含めて、観光、そして、修学旅行の学生たちの交流等につなげながら、より深い関係を築いていければと考えているところであります。

2. その他（2項目）

1. 2020年度（令和2年度）クルーズ客船の入港予定について

- 来年度のクルーズ客船の入港予定につきましては、決まり次第、早く示しながら、色々とみんなで盛り上げていこうということで、現段階の状況を発表させていただきます。
- 現在のところ、外国船籍は、13回の入港を予定しており、そのうち初入港の船が2隻予定されております。
- なかでも、9月24日（木）には、「クイーン・エリザベス」が釧路港に初入港

する予定となっているほか、今年度初入港した「ウエステルダム」「シルバー・ミュージズ」については、来年度も入港するなど、「ダイヤモンド・プリンセス」も3回の入港が予定されております。

- また、この他に、日本船をはじめ、入港回数が増える予定となっております。
- このようにスケジュールが決まっておりますので、お迎えしていくために、関係団体、また市民、商店街等、色々なところに情報発信をしながら、進めていければと考えております。
- そして、今年度のクルーズ客船の入港回数結果につきましては、16回の予定のうち、1回が台風で中止となりましたが、これまで14回入港しており、10月10日（木）に「ウエステルダム」が入港して終了することとなっております。
- 入港時には、これまで、「釧路みなとオアシス協議会」「釧路国際交流の会」「釧路観光ガイドの会」「グローカルみらいネット」などの関係団体の皆様のほか、寿こども蝦夷太鼓同好会の演奏によるお出迎えを行ってまいりました。特に外国船籍クルーズ客船の入港時には、国際交流事業として、釧路公立大学、釧路短期大学、標茶高校、商業高校、明輝高校、東高校の学生や興津小学校の児童たち約200名のご協力をいただき、歓迎ムードを盛り立てています。
- なお、10月11日（金）からは、今年度、釧路港に入港したクルーズ客船を対象とした「釧路港クルーズ客船 フォトコンテスト2019」の作品募集が開始されます。10月10日（木）はラストチャンスですから、写真を撮って、ぜひ、応募をしていただきたいと思います。

2. 「釧路市中小企業基本条例 制定10周年記念セミナー」の開催について

- 平成21年4月の施行から今年で10年目を迎える「釧路市中小企業基本条例」は、「人・モノ・金など財の域内における循環（域内循環）と域外からの外貨の獲得」を基本的なキーワードとしながら行い、まちのそれぞれの企業が元気になっていただくというものであります。
- これを記念し、来たる10月9日（水）に、一般社団法人北海道中小企業家同友会くしろ支部主催により「『釧路市中小企業基本条例』制定10周年記念セミナー」が開催されます。
- 当日は、釧路市顧問であります小磯修二先生による基調講演の後、株式会社釧路新聞社の星社長のコーディネートのもと、k-Biz 澄川センター長、株式会社オイコスの森川社長に私も加わりまして、パネルディスカッションを行い、聴衆の皆様と共に「釧根の次の10年に向けた 持続可能な中小企業振興策」を考える場にしていきたいと考えております。

- なお、本セミナーは、事前申込制となっております、10月4日（金）までとなっておりますが、10月7日（月）まで申込みを延長いたします。

3. 質疑要旨

（質問）

- ・ 釧路市が誇る「タンチョウ」と「マリモ」という2つの特別天然記念物が、台湾に渡ることによって、釧路市にどのような効果が期待されますか。

（市長）

- ・ 東洋一の動物園といわれているものが、台北市立動物園であり、その中で、日本から特別天然記念物が初めて海外に出たものが「タンチョウ」であります。そして、今回、植物の特別天然記念物が初めて海外に出るのも「阿寒湖のマリモ」ということですので、そのような意味では、極めて重たいものであるということ、台北市立動物園や台北市、また台湾当局にも受け止めていただいていると考えているところです。

私どもは、そこを一つのきっかけとして、色々な交流を進めていきたいと思っております。あわせて、動物園や色々なところで交流した人たちへ、さまざまな情報発信をし、伝えていきたいと思っております。

そして、最も釧路に来ていただいているのは、台湾の方々に、何回も来ていただいているリピーターの方もいらっしゃいます。さらに交流を深めていければと考えております。

（質問）

- ・ 訪問団は、どのような日程で行くのでしょうか。

（動物園長）

- ・ マリモ関係は、本日3日に訪台しております。タンチョウ関係は、明日4日に出発します。それ以外の方々は、5日に出発します。

（市長）

- ・ 基本的には、5日出発、8日帰釧という日程になります。

（質問）

- ・ 台湾の台北市に行かれて、様々な式典に臨まれ、PRを行って来るといいますが、これを契機に、いわゆる友好都市や姉妹都市の提携であるとか、釧路空港への定期便の就航であるとか、今後に結び付けていきたい狙いはあるのでしょうか。

（市長）

- ・ 今、世の中は、グローバルという言い方もありますが、色々なところで交流を広げていくことが必要であると思っております。今回の動物園の交流というものをさらに進めていくことや、もちろん、観光の観点からもPRするということがあります。もう一つ、今回は、先程もお話をしましたけれども、来年から市立の釧路北陽高校が、台北市へ修学旅行で行きますので、10代の子どもたちが、台湾の同年齢の学生と交流を進めていけたらと思っております。このようなことを積み重ねていくことが重要であると思っております。

今回は、学校ではなく、私や教育長が訪問するということは、やはり、修学旅行等での交流が目的ではなく、そこに行くまでに色々なことを学校でできないかと思っております。来年の10月か11月に240名全員が行く予定をしており、

台湾でどのような交流を行うか、事前にメール等でやりとりをしながら、運営委員会等で台湾のメンバーと北陽高校とで、当日行う内容について、自分たちで打ち合わせをしながら準備を進めるといった形です。当然、そのようになりましたら、英語を勉強しなければならないですし、一生懸命、辞書を見ながら書くのかもしれないですが、そのような取り組みを行いながら、来年の修学旅行を進めていけたらと考えております。やはり、一つのことをイベントとして実施するのではなく、これをどのように繋げていくかを、今回、学校の方と話をしてきたと思っております。

そのような中で、さらに色々なことを進めていくために、友好都市であるのか交流都市であるのか、そのようなものがあるとするれば、それもまた一つの方法であると思います。それが目的ではなく、そのようなことを進めていくことで、釧路の大人の皆さんもそうでありませけれども、子どもたちが視野をさらに広げていくということが重要なことですので、そういうところに結び付けて進めていけたらと思っております。

(質問)

- ・ クルーズ客船について、今回は、外国船籍の予定の発表ですが、日本船も入る予定と認識してよろしいでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。

(みなと活性化主幹)

- ・ まだ、発表されていない部分がありますので、これから情報が入ってくる予定です。

(市長)

- ・ クルーズ客船は、予定が早く決まります。大体、色々と人気があるところであれば3年前ぐらいからプランが始まり、2年前ぐらいに確定します。外国船籍の方はいち早く決まっていきますし、国内も年内には来年の予定が発表されていく形です。

私たちが、そのような意味では、しっかりとクルーズ客船の会社等に、始めから地元のイベント予定表を先に決め、情報を発信しながら、このような形でやっていきますとお伝えしておりますし、あわせて、今回、早く発表させていただいたのは、それに合わせて、様々なおもてなし等は、もちろんであります。色々な企画であるとか、管内の自治体で行われることがあれば、これもメニューになっていきますので、いち早く決まった段階から発表し、進めていこうということです。

(質問)

- ・ 「天然マリモ」「タンチョウ」について、「貸与」ということは、基本的に、所有は釧路市にあり、台湾にいるという理解でいいのでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。

(質問)

- ・ 10日の「ウエステルダム」が入ってくれば、今年の日船を含めた入港は、15回ということですが、このうち外国船籍は、何回の入港でしょうか。

(市長)

- ・ 台風の影響により1隻入港しなかったことから、「ウエステルダム」を含めて

10回です。

(質問)

- ・ 外国船籍のクルーズ客船が、来年は13回入ってくるということですが、過去最多になるのでしょうか。

(市長)

- ・ 以前、「ダイヤモンド・プリンセス」が、複数回ったことがありましたので、過去最高は、平成26年に21回です。近年は、平成24年2回、平成25年5回、平成26年が21回で、これは「ダイヤモンド・プリンセス」が来た時期です。その後の平成27年5回、平成28年からは10回ぐらい来ており、今年が11回、来年が13回ということで、順調に増えてきているという状況です。

(質問)

- ・ k-biz の開設から1年あまり経過しましたが、手応えを教えてください。

(市長)

- ・ k-biz は、基本的に多くの方々が相談していただいているかという意味での来客数・相談数が、一つの指標になるところで、多くの方々が、k-biz の取り組みや澄川センター長をはじめ、非常に信頼しているといった声が多く聞かれております。そのようなことは、やはりすばらしいことだと思っております。まさに伴走型支援ということで、親身になって、釧路市ビジネスサポートセンターが、この地域の中、市民の方々、事業主の方々にしっかり位置付けられているということが最大の成果であり、ありがたいことであると思っております。

(質問)

- ・ 予約・相談待ちが、1カ月を越えているという状況で、伴走型支援が非常に人気を博している理由ではないかというご説明がありましたが、k-biz がこれほど支持を得ている理由は、他にはどのように見られますか。

(市長)

- ・ ビジネスサポートセンターの仕組みとして、地元のそれぞれの会社が、力を付けていただいて、誘致をすとか貸借対照表といった形の中でどうこうするというものではなく、強いところを見つけていくというもので、このモデルは、まさしく f-biz モデルという新しいものであり、極めて重要なものであるということが一つあります。しかしながら、そのシステムがあるから、必ずうまくいくのかということですが、これは、釧路の場合は、澄川センター長という人であり、ここに、また、大きなウェイトが掛かってくるものであります。

この仕組みの理念と、もう一つ、実際に行っていく人材が噛み合っ、初めて成り立っていくものだと考えております。そのような意味では、私どもは澄川センター長という、非常に素晴らしい方に来ていただいたと思っておりますし、今回も、この後で、ブランディングマネージャーを発表させていただきますが、そこを充実させていきながら、1件でも多くの相談を行い、売り上げ増につなげていくことができるよう、しっかりとサポートしていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 後ほど、ブランディングマネージャーが発表されますが、この方には、どのようなことを期待しておりますか。

(市長)

- ・ やはり、人材というものは、コミュニケーション能力となると思います。企業の強みを見つけ出し、様々なアイデアを出すところがベースになりますので、そこ

をどのように具現化していくかということです。新たなブランディングマネージャーも公募を行い、非常に素晴らしい方に来ていただいたところです。そのようなところが知恵を出しながら、具体のものをどのように具現化し進めていくか、あわせて、ITアドバイザーのスタッフもおりますし、事務方では、企業サイドの方もバックアップしていただいておりますので、それぞれが役割を果たしていただけていると思っており、本当に充実されてきているものと考えております。